

「日本語教育の参照枠」における漢字について

大阪産業大学/「生活の漢字」をかんがえる会

新矢 麻紀子

makiko@int.osaka-sandai.ac.jp

◆「日本語教育の参照枠」に文字を取り入れることについての見解

平仮名、片仮名、漢字、ローマ字を設定することが必要である。

ただし、A2 レベルにおいては、漢字は限定的な数に留めることが妥当であろう。

◇「日本語教育の参照枠」に文字を取り入れる必要性について

1. 生活や人生を支える「リテラシー」という視点から

・リテラシーの欠如は、差別、健康状態の悪化、社会的排除の要因となる。リテラシーは、個人やコミュニティや社会や国家や世界が社会的、文化的、経済的、政治的に満たされるための根幹である(The Literacy Decade: Getting Started, 2003-2004)。

・literacy の獲得によって、人々はエンパワーされ、十全な社会参加ができるようになり、暮らしが改善される(Literacy, UNESCO)。

・特に、日本語は文字言語であり、日本は文字社会であるため、文字の読み書きができないこと(非識字)は情報弱者・社会的弱者につながりやすい。

→ 「日本語教育の参照枠」に文字が含まれないことは、外国人が非識字状態となり社会的排除の状態に置かれることを国として是とすることになるのではないか。制度的差別とも言える。

2. 調査研究/教育実践から得られた知見から

1) 調査研究結果から

- ・日常会話レベルの口頭言語能力は自然習得等で有する場合も多いが、書記言語能力(文字(特に漢字)、文章の読み書き)は自然習得はほぼ不可能である(衣川 2000、富谷他 2009、新矢 2013、他)

事例：10・20年の滞日歴があっても、自分の住所が漢字で表記できない(新矢・棚田 2016、他)

リテラシーの欠如により、非正規、低賃金の単純労働職の平行移動を繰り返す(新矢 2020)

- ・日本語教室の不在(空白地域：全国の地方公共団体の約 2/3)により日本語学習機会が得られない。
- ・日本語教室がある場合でも、文字学習があまり行われない

理由：日本語教室の時間・頻度の問題：「週に1回、2時間」

地域日本語教育専門家と適切なカリキュラムの不在

「漢字学習支援の方法がわからない」(日本語ボランティアの声)

日本語教室での学習内容の課題：「まずは会話」→文字は後回しに

実態の見誤り、不正確なニーズ把握

「学習者の要望がない」「家族がいるから大丈夫」

→被差別部落出身者、在日コリアン等に生じた非識字問題がニューカマー外国人にも生じている

→「日本語教育の参照枠」に文字が設定されなければ、その状況がさらに悪化することが危惧される

2) 「生活の漢字」 教室での実践から

○文字学習に特化した地域日本語教育の専門家による日本語教育活動（「生活の漢字」をかんがえる会）
文化庁地域日本語教育支援事業（平成 18,19,20 年度）

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 21-令和 3 年度）

・新たなカリキュラムやシラバスの必要性

これまでの日本語教育や国語教育における漢字の難易度や提出順序とは異なる視点や基準が必要であることが、教育実践や学習者調査から示唆された。

生活に必要とされる漢字語彙は一部を除いて、教育漢字による語彙や日本語教科書に提出される漢字語彙と異なる

「100 回書いて覚える」「漢字の音訓の読み全てを一挙に記憶する」等の教育方法からの脱却

・初期指導の重要性と必要性

日本語学習の初期に適切な漢字指導を行えば、漢字学習は自律学習が難しくない。

Q: この教室を終わってからも、一人で勉強を続けますか。何で、どうやって勉強しようと思っ
ていますか。

「子ども用の漢字の絵本を買って勉強したい」

「辞書を使って書く練習をしたい」

「インターネットやスマホのアプリを使って勉強します」

「以前買ったテキストと辞書を使って漢字の勉強を続けたいです」

「別の教室で勉強を続けます」

（事後アンケート「外国人のための漢字教室アンケート」2016 年度）

・文字学習・文字習得をとおしての生活世界の拡大、自信・自尊感情の獲得

Q: 教室に来て、あなたの生活は変わりましたか。何が変わりましたか。どのように変わりましたか。

「日常生活で見かける漢字でわかる漢字が増えました。一人で自転車に乗って出かけられるようになりました」

「自分の住所を漢字で書けるようになった」

「少し勇気を持てるようになった。一人で電車に乗って、ゆっくり読んでみるようになった。乗り換えが怖くなくなってきた」

「自分一人で出かけることに少し自信が持てるようになった」

「今、夫の手助けなしで病院に行けたり、他の場所に行けたりすることに自信が持っている」

「はい。わたしは幸せで、漢字を勉強した自分を誇りに思う」

◇ 「日本語教育の参照枠」に文字を取り入れることによる効果について

1. 文字教育・学習の必要性や重要性の認識の普及

特に地域日本語教育現場において、未だ文字習得の本質や意義が認識されていない。参照枠に取り入れることによって、リテラシーの意義の普及とともに文字学習の普及が可能となるであろう。

2. 漢字教育の新たな内容と方法の開発

参照枠に漢字が設定されることを機に、漢字教育の内容や方法の抜本的な見直しを行い、新たな方法論の開発を行うことができるのではないかと。

◇「日本語教育の参照枠」における漢字の扱いについて

1. 単漢字のみを設定するのではなく、その漢字を含む漢字語とともに提示することが必要ではないか。
 - ・実際の場面で単漢字だけで使用されることはないため
 - ・漢字の読みを全て暗記させる、不要な語彙まで暗記させるような漢字教育が行われないようにするため
2. 基礎漢字は「理解」「認識」「読み」に留め、「書き」は求めないほうが良いと考えられる。ただし、名前と住所はA2でも「書き」が必要である。
3. New Literacy Studies (Barton2006 他) では、literacy は個別性が高く、多様で多彩であるとされる。そのことから、共通の基礎漢字は最低限に留め、その先は、分野別、属性別、個人別にて設定したほうが良いのではないかと考えられる。

リテラシーは、UNESCO (2004) が提唱した「識字の多元性 (plurality of literacy)」や New Literacy Studies (Barton2006 他) が言うような、文脈に埋め込まれた社会的概念であり、文化や個人の状況の異なりによって「多様なリテラシー (literacies)」が存在すると考えられる。

個人の文字習得数や読み書きの能力だけではなく、個々の有する人的資源や生活環境、社会的背景や制度まで含めた文脈までをも考慮しなければ説明できない事象が生じている (新矢・棚田 2016)。

→ 共通の基礎漢字は最低限に留め、その先は、分野別、属性別、個人別にて設定したほうが良いのではないか。職業や社会への参画のあり方の違いにより、各自に求められるリテラシーには大きな差異があるため、だれにでも共通するような場面や状況における語彙 (漢字語) 以外以上は、共通したものを抽出・選択することが困難だと考えられる。

◇基礎漢字の策定方法について

○策定の方針について

- ①全ての学習者にとって共通に必要なだと考えられる最低限の漢字を選定。100字程度が妥当か。
- ②単漢字としては意味の理解・認識を優先し、書きは求めない。漢字語としては読みも必要かもしれない。

参考：書きは、自身の住所と名前については必須である。
- ③日本語教材での頻度調査のみでは、JLPTの漢字の影響を受け、社会での使用頻度から外れた漢字が上位に出現する可能性があるため、日本社会の漢字出現頻度数調査を参考に、頻度が低い漢字は外したほうが良い。
- ④漢字への興味の喚起や漢字の識別能力・弁別能力の養成を考慮すると、漢字の部品等、漢字の形にも配慮して選択したほうが良いかもしれない。

◇今後に向けて

○新たな文字 (漢字) 教育/学習の指針や方法の開発と普及

文字 (漢字) の策定を行うにとどまらず、文字 (漢字) 教育/学習の指針や方法についても同時に提示することが必要だと考えられる。

- ・従来の「苦行的な漢字学習」からの脱却
- ・初期指導の有効性の認知
- ・自律学習に結び付く、専門家による初期指導の必要性和重要性

○基礎漢字の継続的な調査と改定

＜参考文献＞

- ・衣川隆生（2000）「就労を目的として滞在する外国人における識字能力の現状と今後の課題」『文藝言語研究. 言語篇』第37号, 107-127
- ・新庄あいみ・新矢麻紀子・永井慧子・御子神慶子・WOO Wai Sheng（2012）「定住外国人に対する漢字学習の必要性とその実践」『2012年日本語教育国際研究大会』2012年8月, 名古屋大学
- ・新矢麻紀子（2013）「地域日本語教室における文字学習支援の課題と可能性」『大阪産業大学論集人文・社会科学編』17号, 19-33.
- ・新矢麻紀子（2020）「国際結婚移住女性の日本語とキャリア：リテラシーの補償と保障に向けて」『日本語教育』（175）, 19-33.
- ・新矢麻紀子・棚田洋平（2016）「日本語教室不在地域における国際結婚移住女性のリテラシー補償と社会参加：生活史と学習環境に着目して」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』26号, 37-52.
- ・生活の漢字をかんがえる会（新庄あいみ・新矢麻紀子・永井慧子・御子神慶子・WOO Wai Sheng）（2010）『新にほんご＜生活の漢字＞漢字み～つけた』アルク
- ・生活の漢字をかんがえる会（新矢麻紀子・新庄あいみ・棚田洋平・御子神慶子）（2017）「「生活者としての外国人」に対する基礎的なリテラシーを保障するための漢字教育」『基礎教育保障学会第2回研究大会』研究発表
- ・富谷玲子・内海由美子・斉藤祐美（2009）「結婚移住女性の言語生活-自然習得による日本語能力の実態分析-」『多言語多文化-実践と研究』第2号, 116-137. 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター
- ・西口光一監修・新矢麻紀子・古賀千世子・高田亨・御子神慶子著（2014）『みんなの日本語初級I 第2版 漢字 英語版』スリーエーネットワーク
- ・Barton, David (2017) *Literacy: An Introduction to the Ecology of Written Language*. Blackwell.
- ・Page, James E.(2004) *The Literacy Decade: Getting Started, 2003-2004*. Basic Education Division, Literacy and Non-Formal Education Section, UNESCO.
- ・Literacy, UNESCO
<https://en.unesco.org/themes/literacy>
 (2021年7月9日最終アクセス)
- ・UNESCO(2004) *The Plurality of Literacy and its Implications for Policies and Programmes*, UNESCO Education Sector Position Paper.